

表 3 新卒等訪問看護師育成過程における指導者として関わるポイント

【ステップⅠ期】(4～5月までの育成) (\* 新人訪問看護師については、看護師経験を踏まえて時期を設定する)

【入職後1年目のステップ】		ステップⅠ期	
区分		4月	5月
一般目標		訪問看護の実際を学ぶ	
指標	利用者背景 <sup>注1</sup>	クラス1:状態の安定した利用者	
	訪問方法(同行・単独)		
	訪問件数 (担当利用者数・受け持ち利用者数)	同行訪問ができる(1～2件/日)	
	緊急対応状況	緊急対応の手順を理解する	
習得技術 (訪問看護基礎技術レベル <sup>注2</sup> )	前期の技術を学ぶ <sup>注2</sup>		
在宅看護過程	情報収集・問題抽出・看護計画立案	支援を受けながら関連図を描くことができる	
	訪問記録	同行訪問と支援を受けながら訪問看護記録ができる	
	評価	訪問実施に対する気付きができる	
到達目標	基本姿勢・コミュニケーション	①接遇の5原則が実践できる ②利用者・家族と基本的な(治療的)会話ができる	
	教育指導	利用者・家族の在宅療養に必要な教育指導を考えることができる	
	多職種連携	連携会議に参加し、訪問看護の立場から発言できる	
	目標管理	ステーションの理念を理解し、目標管理について考えることができる	自己の目標設定ができる
組織的・管理的側面	時間管理	時間内に終える業務範囲とする(能力とのバランスに応じて適切に業務量の調整を主張できる)	
	物品管理 (材料、薬剤、備品など)	説明を受けて、管理方法を知っている	
	危機管理 (安全、感染、暴言・暴力、災害など)	説明を受けて、マニュアルを知っている	
	倫理的側面	看護者の倫理綱領・個人情報保護について述べる事ができる	
学習・研修	個人学習	自己研鑽の必要性が理解できる	
		医療保険制度・訪問看護制度を学ぶ	
		ポートフォリオの作成(管理者による定期的な評価)	
	他機関に勤務する同期との交流	→	
訪問看護ステーション内研修	同行訪問利用者の関連図作成		
	同行訪問と振り返りカンファレンス(入職6ヶ月まで週1回)		
他施設研修	病院:新人技術研修 前期注		

参考資料:新卒等訪問看護師育成マニュアル(広島県看護協会)第2版[注1 利用者の背景「クラス」(表3)参照p.3 注2 訪問看護基礎技術チェック表(表5)参照p.9]

【ステップⅢ期】(10～12月までの育成) (\* 新人訪問看護師については、看護師経験を踏まえて時期を設定する)

【入職後1年目のステップ】		ステップⅢ期			
区分		10月	11月	12月	
一般目標		支援を受けながら単独訪問ができる (24時間対応について学ぶ)			指導者として関わるポイント
指標	訪問看護実践	利用者背景 注1	クラス3: 状態の安定したがん療養者		* 状態の安定したがん療養者の訪問看護に指導者と同行する。
		訪問方法(同行・単独)	単独訪問件数1～2件/日・指導者と夜間の同行訪問ができる		* 急変でない利用者の夜間の同行訪問を始める
		訪問件数 (担当利用者数・受け持ち利用者数)	← 担当開始 →		* 目標の訪問件数が達成できるように支援する
		緊急対応状況	支援を受けながら日中の緊急時の対応ができる		* 緊急対応時には、可能な限り同行させる
		習得技術 (訪問看護基礎技術レベル 注2)	支援を受けながら後期で学んだ技術を実施できる		* 未経験項目については、機会があれば体験したいことを自らが申し出るように指導する
到達目標	在宅看護過程	情報収集・問題抽出・看護計画立案	1人で看護計画を立案できる (クラス1, クラス2の利用者)		* 状態の安定したがん療養者の看護計画を立案できるように指導する
		訪問記録	利用者のケースカンファレンス(内部)で進行ができる		* 利用者の看護過程を報告し、他者の意見を求め、まとめることができるように指導する
		評価	1人で訪問後の評価および計画修正ができる		* 適切に計画の修正ができるように指導する
	基本姿勢・コミュニケーション	接遇・人間関係	状況に応じた接遇対応ができる		* 不適切でないことを確認する
		教育指導	利用者・家族に在宅療養に必要な教育指導ができる		* 利用者・家族の能力に応じた教育内容が指導できるように指導する
		多職種連携	①連携会議で利用者の説明を行い、他者の意見を求め、ケアの方向性をまとめることができる ②受け持ち以外の患者についても、専門的見地から意見を述べる事ができる		* 説明する優先順位と内容が理解できるように指導する * 自分の意見をもって参加するように指導する * 利用者中心の課題で考えることができるように指導する
	組織的・管理的側面	目標管理	修正した到達目標に沿って行動できる		* 課題が達成できるように支援する
		時間管理	効率的な時間管理を考えて行動できる		* タイムマネジメントしながら訪問計画をたて、行動できるように支援する
		物品管理 (材料、薬剤、備品など)	支援を受けながら、訪問看護ステーションで管理する物品の取り扱いができる		* 物品管理の流れを理解させ、不足した物品の補充が速やかにできるように指導する
		危機管理 (安全、感染、暴言・暴力、災害など)	マニュアルに沿って、安全・感染管理行動がとれる支援を受けながら、暴言・暴力対応、災害対応ができる		* 暴言・暴力、災害発生時には速やかに報告、相談し、支援を受けながら行動できるように指導する
	倫理的側面	①倫理問題のとらえ方・解決の方法論(モデル)を活用できる ②倫理カンファレンスに参加し意見を述べる事ができる		* 利用者や家族にとって、最善の方法を考えることができるように指導する	
学習・研修	個人学習	利用者が使用している医療保険制度、介護保険制度について学ぶ		* 期限内に修了する様に指導する * 緊急訪問の、診療報酬の算定についても理解できるように指導する	
		学会等に参加し、自身の位置を確認する		* 学会等への参加を進める	
		← 他機関に勤務する同期との交流 →			
	訪問看護ステーション内研修	同行訪問と看護計画評価・修正		* 受け持ち利用者の看護計画を発表させる	
	同行訪問と振り返りカンファレンス(月2回)		* 計画どおり実施する		
他施設研修	病院・老健施設等 注3、 訪問看護技術研修 後期	大学: シミュレーション研修 「急変時対応」		* 施設内研修等、必要があれば企画できるように支援する	

参考資料: 新卒等訪問看護師育成マニュアル(広島県看護協会)第2版[注1 利用者の背景「クラス」(表3)参照p.3 注2 訪問看護基礎技術チェック表(表5)参照p.9]

注3 老健施設は「介護老人保健施設」をいう